

2023年度 有料道路コンセッションの取組状況について（概要版）

I. 事業報告

(1) 交通量 (6,343万台 [2022] → 6,636万台 [2023])

- 8路線全体の交通量は、前年度（2022年度）比では104.6%と増加したが、コロナ禍前の2018年度比では94.0%
- 路線別では、2018年度比で知多横断道路が84.2%、中部国際空港連絡道路が83.3%と回復に至っていないが、名古屋瀬戸道路は110.1%と堅調な回復

(2) 料金収入 (15,579百万円 [2022] → 16,322百万円 [2023])

- 8路線全体の料金収入は、前年度（2022年度）比では104.8%と増加したが、2018年度比では93.5%
- 路線別では、2018年度比で知多横断道路が81.8%、中部国際空港連絡道路が80.7%と回復に至っていないが、名古屋瀬戸道路は121.1%と堅調な回復

(3) 収支状況

- 2023年度の収支実績
 - ・愛知県道路公社（以下「公社」）の償還準備金繰入は21億円
 - ・愛知道路コンセッション㈱（以下「ARC」）は当期純利益1.5億円を計上

【評価】

- ・2023年度のARCの収支は、料金収入が前年同様の水準を維持したため、売上高は計画比で100.6%となり、売上原価は計画比で98.3%に減少した結果、当期純利益は黒字を確保
- ・売上原価の主な減少要因は、雪氷・点検等の費用が減額となったため
- ・公社の償還準備金繰入は、計画を上回る実績であることや、料金収入は回復傾向にあることから中長期的な償還計画に大きな影響を及ぼす可能性は低い

II. 主な取組内容

(1) 通常時や災害時等における維持管理・運營業務

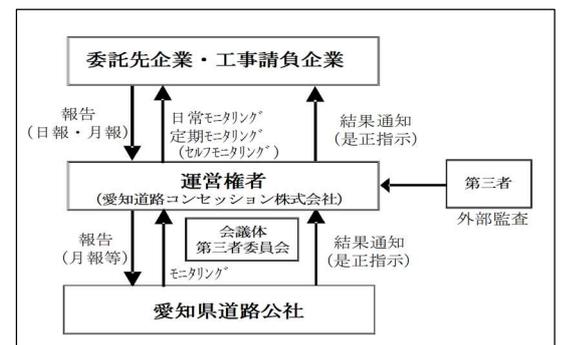
- 公社運営時と同様の管理水準、サービス水準を確保
- 不測の事態に対しても、公社と連携し適切に対応
- ARCが認証取得したISO55001アセットマネジメントシステムに基づく愛知有料道路インフラマネジメントシステムの運用を継続し、重要管理指標（KPI）の目標値を掲げることで、道路運営の「見える化」を図るとともに、事業目的達成のためPDCAサイクルによる継続的な見直しを通じて、より安全・安心な道路運営及び利用者サービスの向上を実現

(2) モニタリング実施による要求水準の確保

- 公社が要求する水準（要求水準書）の達成状況等を確認するため、ARCによるセルフモニタリングと公社によるモニタリングを2段階で実施
- 会議体や中立的な立場の第三者委員会による重層的なチェック体制



【ISO55001 認証及び維持認証】



【モニタリング概要図】

【評価】

- ・業務全体が要求する水準を充足しており、年間を通じて適切な事業運営を確保
- ・維持管理・運營業務における不適切な作業方法等全7件について、ARCに対して是正指導や注意等を行い、再発防止の徹底を図った

(3) 民間の創意工夫による取組

- IS055001 認証の維持（2年次定期審査）
- 維持管理情報のデジタル化等の導入
- 電子帳票ソリューション「i-Reporter」の導入運用
- 電子稟議システムの導入運用
- BI ツールと活用した道路施設損傷等の情報可視化
- 新技術の実証実験
（愛知アクセラレートフィールド®）
- 回数通行券郵送販売のWEB申し込み導入
- 1日乗り放題企画を実施し利用促進
- 知多半島外と相互に人流を生み出すための広域連携PRイベントや、知多半島の市町をPRした「知多半島プチマーケット」の開催
- PA情報コーナーを作品展示の場として利用
- PAで企業・自治体と連携して、「すご〜い工場博 in 知多半島道路PA」を開催
- 冬のイベントとして、PAでイルミネーション装飾の実施
- 「宙の種」をテーマとした高校生の作品を参考に美浜PAをリニューアルするとともに、大型犬専用ドッグランを新設
- ネーミングライトの実施（2箇所）
知多半島道路（阿久比IC卵坂1号橋）
知多横断道路（掘割部ボックス）
- ARC道路カード全9種類を配布



阿久比PA



大府PA

イルミネーション装飾



トイレ棟



ドッグラン

美浜PAリニューアル



ARC道路カード



【評価】

- ・1日乗り放題企画では、利用者の多いETC利用者向けに実施し、利用者ニーズを反映した利用促進及び利用者サービス向上に取り組んでいる
- ・知多半島の市町及び地元企業と連携して、PRイベントを開催し、地域の活性化に取り組んでいる
- ・新技術導入に必要なフィールド検証を行う仕組み「愛知アクセラレートフィールド®」を活用し、新技術の実証実験を行うとともに、「ハイウェイテクノフェア2023」への出展等、その活動成果を広く発信し、新たな事業機会の創出や将来的な道路インフラ事業に取り組んでいる